

企画ワークショップ(5) 「障害のある児童・生徒の 継続的支援のための 情報共有の仕組みについて」

企画：中鹿直樹・望月昭（立命館大学）

報告：

京都市立北総合支援学校 小澤牧子・土田菜穂
京都市立西総合支援学校 上田征樹・上田文彦
立命館大学 中鹿直樹・望月昭

報告3:支援の断続性が継続的支援につながる：学生ジョブコーチによる模擬喫茶店舗での障害のある生徒の実習の支援

立命館大学学生ジョブコーチグループ
中鹿直樹

1. 学生ジョブコーチの取り組み

- 援助付き雇用 (supported employment)
 - 援助を前提とした就労の形態・考え方
- ジョブコーチ
 - 援助を行う職業的な援助職の一つ
 - 障害者が職場に適応する際に、当人と一緒にあるいは先行して職場に入り、一定期間、職場において支援を行う

学生ジョブコーチの取組み

- ベース：システムティックインストラクションによる業務行動の成立
- その上で：セルフ・マネージメントの視点

事例1

- 職場：大学生協書籍部
- 主な業務：バックヤードでの本の管理業務
- 主要な課題：業務内容や順序が毎日異なり、おそらくそのために、対象生徒は、職場スタッフに「〇〇できました」といった報告や「次は××ですよ」といった確認行動を不要なほど頻回に示し、職場から問題視

事例1 つづき

	生徒の状態	目印	生徒の行動	生徒が求めるもの
		先行事象	行動	後続事象
介入前	先の見通しがつかず不安	職員	確認する	職員の同意、うなずきなど
	作業遂行への不安	職員	報告する	職員の同意、うなずきなど
目標	先の見通しがつかず不安	スケジュールを書いた表	スケジュールの参照	自分で先の見通しをつけ作業して安心
	作業遂行への不安	マニュアル	マニュアルの参照	自分で作業手順を確認して安心

事例1 つづき

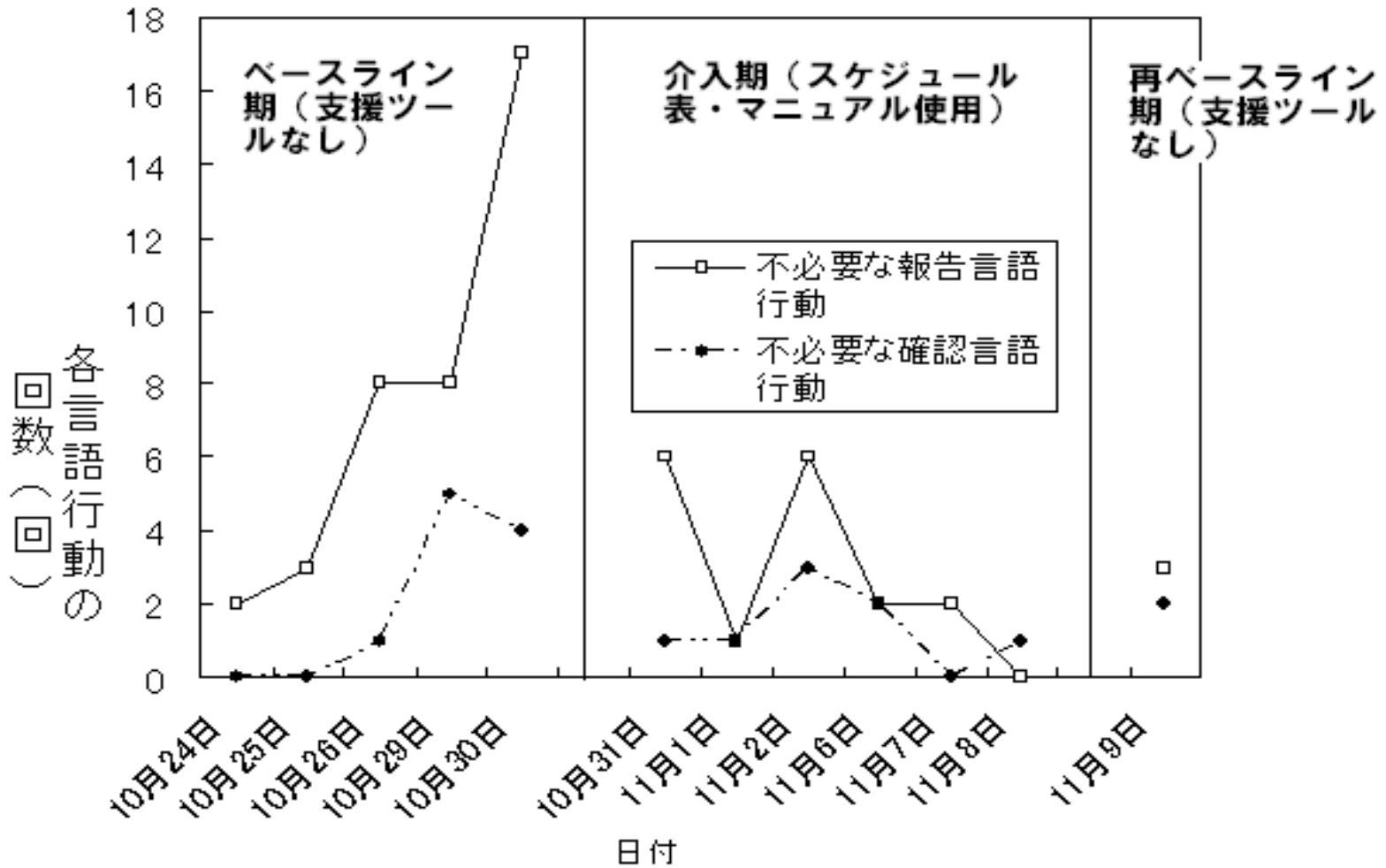
	加算き（店員さんとレシートを作る）	2
●	検収入力（伝票番号をパソコンに入力する）	3
	返品作業（書籍）	5
	返品作業（文庫）	8
	返品作業（雑誌）	11
	POS外入力	15
	本棚のせいり	16
	昼休み	
	帰宅	

けんしゅう

検収入力(伝票番号をパソコンに入力する)

- 全部の伝票にはんこを押す
- 伝票→上から2段目のたなのファイルに入れる
はんこ→下から3段目のたなに戻す
- パソコンの^{しゅうりょう}終了をクリックする
- 店員さんに「できました」と言う

事例1 つづき



事例2：「いらんことしい」と評される
Cさん『これ』をつけて「できる」に
—ポジティブな評価のための「役割」創造—

- 本人：成人（移行支援施設から実習へ）
- 状況：市内ゴルフ場でのボール磨き

課題：【既存の表現：評価】 他の人のやることに
「余計な」口を出して、自分の作業がおろそか

「できる」の設定への変換

●当初の要望

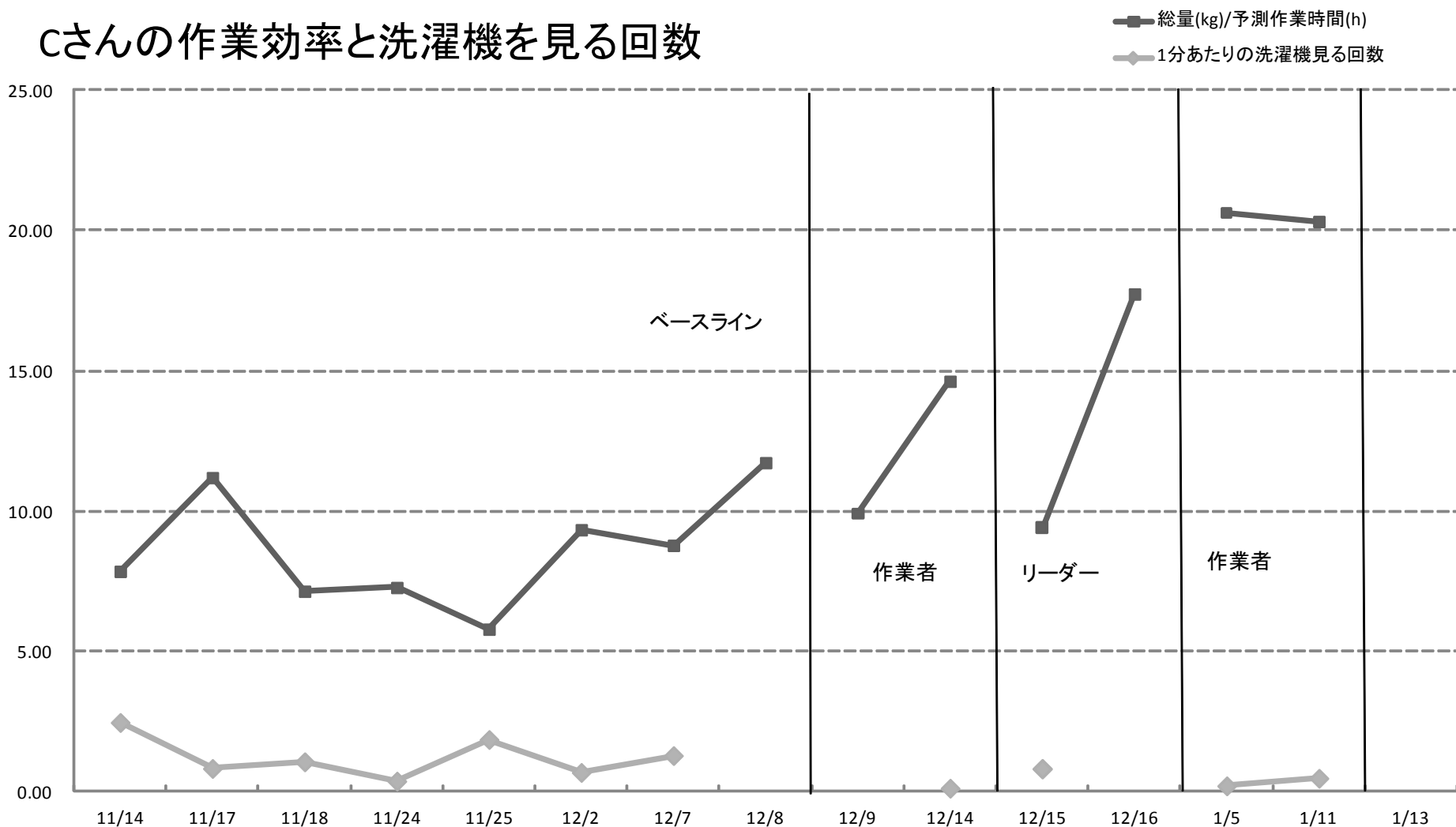
作業中は声を出さずに作業に集中するようにする。

●目標設定の置き方としては・・・

- 1) 作業中は黙って作業に集中することが「できる」。
- 2) 他の人に休憩時間などを指示するリーダー役が「できる」。「リーダー」と「作業専業」の役割を区別することが「できる」。作業専業では黙って仕事が「できる」。

★『これ』：リーダーという交代性の役割の設定。

Cさんの作業効率と洗濯機を見る回数



	11/14	11/17	11/18	11/24	11/25	12/2	12/7	12/8	12/9	12/14	12/15	12/16	1/5	1/11
作業量	7.86	11.20	7.15	7.29	5.80	9.34	8.79	11.73	9.90	14.63	9.41	17.74	20.61	20.33
洗濯機	2.4759	0.83807	1.075	0.38526	1.86875	0.69716	1.2972	無	無	0.134554	0.798908	無	0.219036	0.487565

2. 現場での実習支援から 模擬店舗での実習支援へ

- 大学内に設けた模擬喫茶店舗（Café Rits）



Café Rits



事例3 B君

- 確立操作と後続事象から“行動問題”へ

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた (スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿＋スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「それはやらないで」

⇒寝ころんだり、声を上げるなどの行動が出現

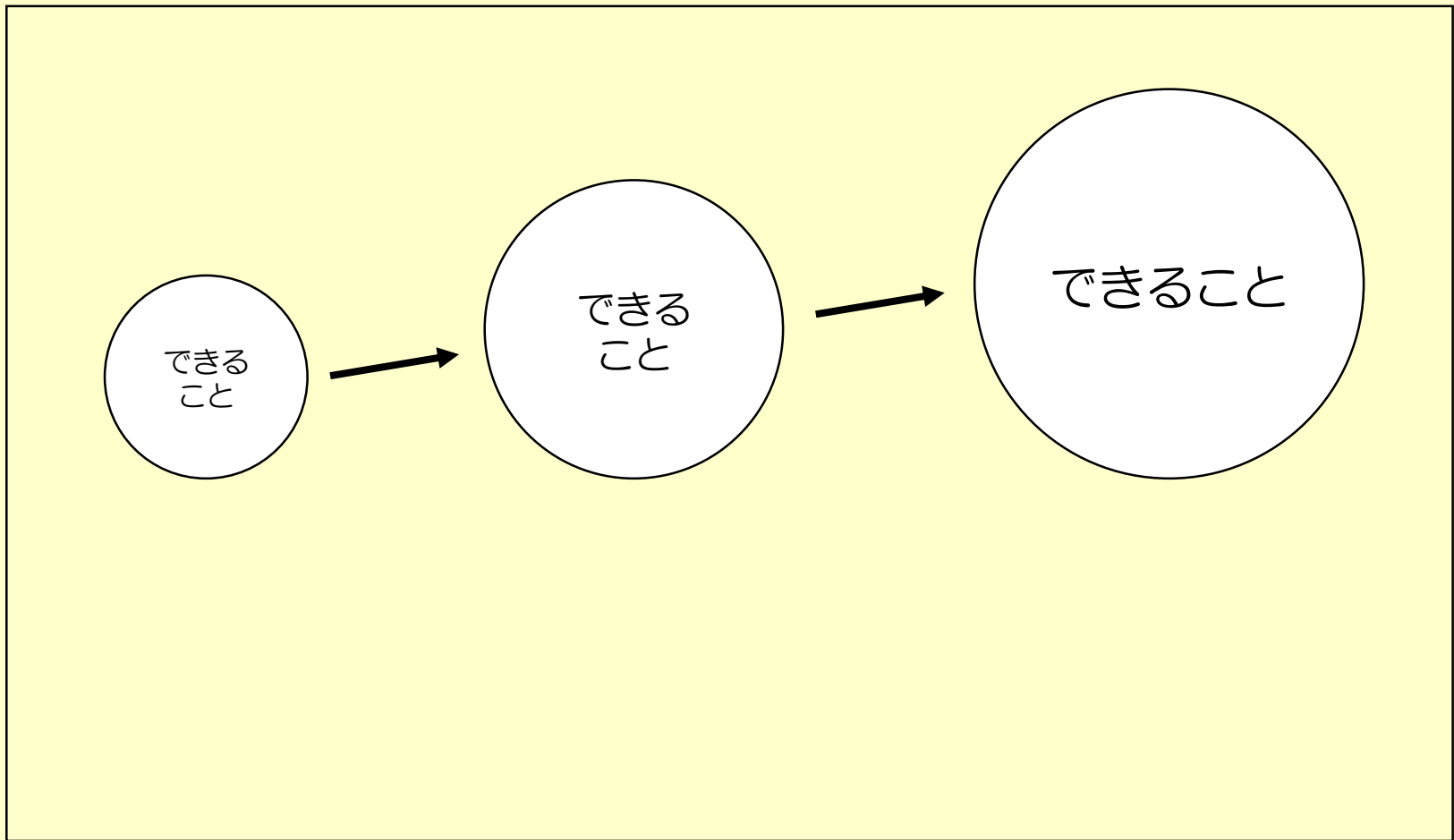
事例3 B君

- 後続事象の変化で、適応的行動へ

状況 (確立操作)	業務に慣れてきた (スタッフからのフィードバックが少なくなった)
先行事象 (弁別刺激)	客の姿＋スタッフの準備する姿
反応(行動)	想定されていない業務に手を出す
後続事象 (結果)	「ありがとう、助かったわ」

⇒さらに、業務を自ら拡大してく

4. できることの拡大へ



「できる」とは

- 当事者が 自らやりがいをもってすること
⇒ 正の強化で維持される行動
- 「行動」：先行事象—反応—後続事象
という枠組み（三項随伴性）として出現
- ジョブコーチ支援：先行事象/後続事象 の補助
- 援助付きの「できる」

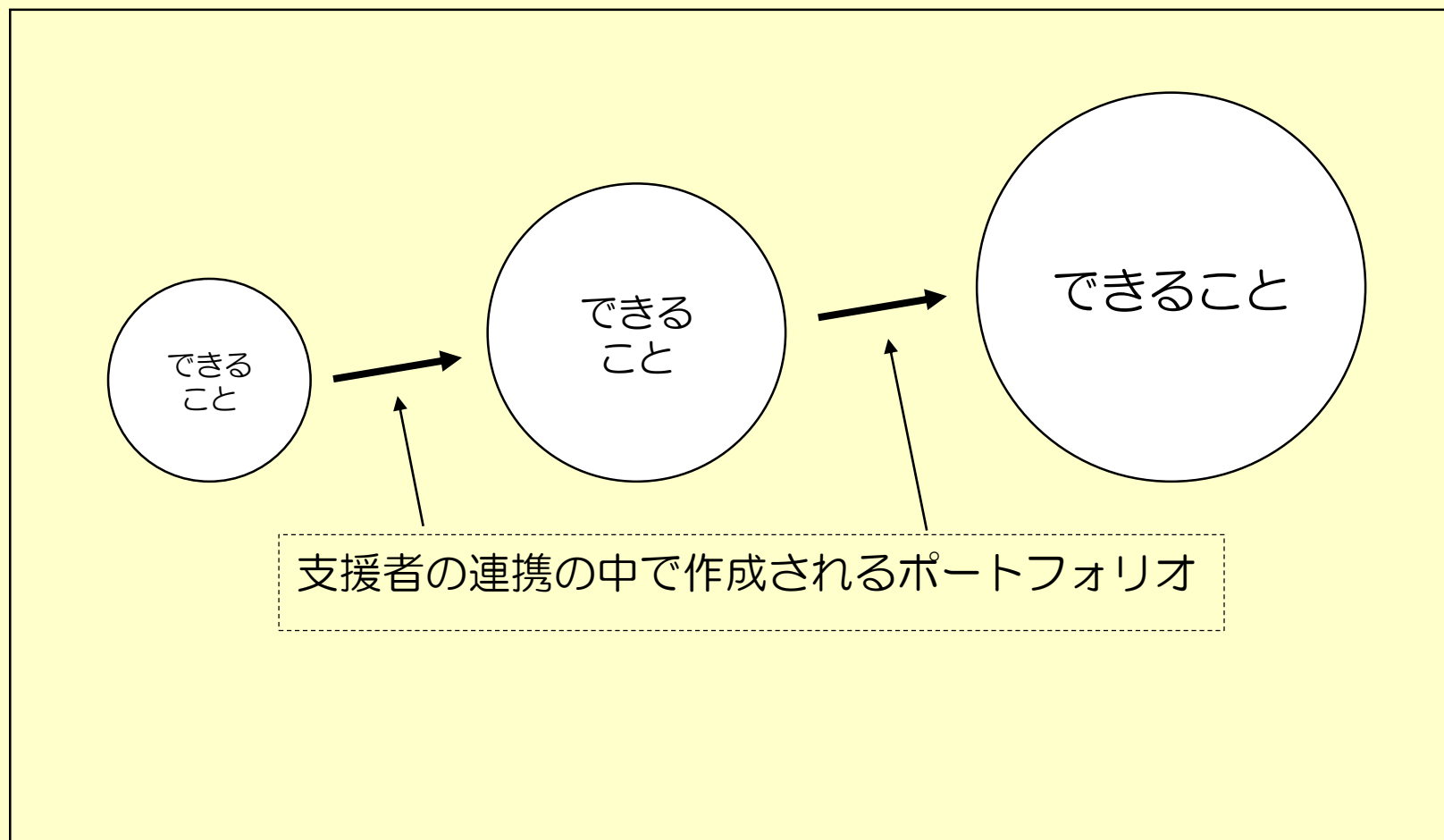
援助

- 伝えないとわからない
 - 情報の意義
- 試してみないとわからない
 - 試す場面の意義
 - 試すことで、情報は拡充・加速する

学生ジョブコーチ支援による 模擬喫茶店舗で情報を作る

- 情報を「作る」という表現
- 場面、環境込での行動
- 試すことでわかる「援助」
 - 試してみないとわからない
 - 試すことで「できる」ことを発見、記述することができる

情報ができることを増やす



断続的な支援

- 場面、環境が異なる状況で「寄り添う」支援者たち
- 行動とは、環境との相互作用で決まる
- 環境が変われば、行動も変化
- 学校で見ている支援者
- 福祉場面で見ている支援者
 - 同じ対象者、同じような行動に見えても環境が異なることで、
違う行動になっている可能性
- そこに情報の齟齬が生じる
- しかし齟齬こそ重要
 - 情報を突き合わせることで、どのような環境下で、どのような行動が生じたり生じなかったりということが見えてくる
 - 情報が膨らんでいく
 - そこから、キャリアアップを加速できる

継続的な支援のために

- 支援は、相対的に短期的な支援が断続的に連なっている
- 継続性を持たせるために情報が必要

支援の断続性

- 断続性が情報を膨らませる
- それによってキャリアアップが可能となる